

時	1	2	3	4	5	6
目標	【知識及び技能】 マット運動の回転系の技としてあげられているロンダートの行い方を知るとともに、ロンダートを安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。					
コア技術	① 側方倒立回転ができています。 ② 技に入る前の助走からホップして回転力を高め、体をひねっている。 ③ 手で強く突き放している。					
めあて	学習の進め方を知り、学習のめあてを持つ。	側転から両足を揃えて着地しよう。	側転から手を突き放して着地しよう。	ホップ動作から側転し、手を突き放して着地しよう。	ホップ動作から側転し、体をひねって後ろ向きに両足で着地しよう。	発表会をしよう。
指導内容	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 壁倒立 3. 側方倒立回転 コア技術①の確認と習得 ① 腰を高く保ちながら踏み出した足と同じ側の手を着く。 ② 逆の足を勢いよく振り上げる。 ③ 後から着いた手で突き放し、片足ずつ着地する。 かかわりあい 補助 ・側転に取り組んだ友だちの手と足の場所に手型と足型を置く。 ・ゴムを使って足が上がっているか確認する。 声かけ ・「手・手・足・足」と声をかける。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. ホップ側転の練習 コア技術②の習得。 3. 段差を利用したの両足着地の練習 ホップ側転の動きから両足で後ろ向きに着地する練習をする。初めはマットを何枚か積んでその上から着地する練習をする。できるようになってきた児童には、少しずつ着地で両足がそろるように練習させる。 かかわりあい 声かけ ① 視線は最後の手 ② 両足着地 協力 両足で後ろ向きに着地できているかを見ておき、技が終わってからどうなっていたかを伝える。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 段差を利用したの両足着地の練習 しっかりと手でマットを押すことで両足着地する余裕が生まれることを確認する。 3. 足を上の方で合わせる練習 「かえるの足打ち」のように足を上の方で合わせることを練習する。 かかわりあい 声かけ ① 「パン！」 ※ 倒立経過の足が一番高く上がった瞬間に足を打ち大きな音を出すことを伝える。 ② 「ピョン！」 ※ 手を突き放す瞬間になど突きはなしを意識できる声かけをする。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. ホップ側転の練習 3. 段差を利用したの両足着地の練習 4. 足を上の方で合わせる練習 かかわりあい 声かけ ① 「パン！」 ※ 倒立経過の足が一番高く上がった瞬間に足を打ち大きな音を出すことを伝える。 ② 「ピョン！」 ※ 手を突き放す瞬間になど突きはなしを意識できる声かけをする。 5. 学習のまとめ 6. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 足を上の方で合わせる練習 前に出す足を上げてもう片方の足でスキップをするような感じでステップを踏む。 3. 自分の実態に合った場での練習 ① ホップ側転の練習 ② ホップ側転から後ろ向きに両足で着地する練習 ③ ホップ側転から足を上の方で合わせる練習 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 発表方法の確認 3. 自分の実態に合った場での練習 4. 発表会 ・VTRの撮影 ・技の出来映えについて助言し合う。 5. 学習のまとめ 6. 振り返り
	指導上の留意点 ホップ動作は、両手を上にあげ体を引き上げることで技に大きな回転力をつけることができる。ただ、これまで取り組んだことのない動きなので、児童の中には習得に難しさを感じる者の多いのではないかと予想されるので、スキップのリズムから伝えてやると児童には親しみやすい。	ロンダートの途中に、両手を着手する瞬間があるが、倒立経過（肩に体が乗る）ことを大切にさせる。	それぞれの場で練習する際には、ペアを作って適宜声かけやアドバイスを行う。 もう少しでできそうな児童を手本にどうすればできるようになるか全体で考えさせる。		技ができるようになった児童にはより大きな動きでできるようにさせる。	
知		② 観察・ICT		① 観察・ICT		② 観察・ICT
思			① 観察・カード	① 観察・カード	③ 観察・カード	② 観察
態	① 観察・カード	② 観察・カード	③・⑤ 観察		④ 観察	

単元の評価規準

【ロンダート（マット運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ロンダートの行い方について，言ったり書いたりしている。 ② 助走からホップを行い，片足を振り上げながら片手ずつ着き，体を 1/2 ひねり両足を真上で揃え，両手で押しながら両足を振り下ろし，空中で回転して立ち上がることができる。	① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。 ② 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。 ③ 友達の手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友達に伝えたり書いたりしている。	① ロンダートに進んで取り組もうとしている。 ② 場の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 場の準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。 ④ 動きや気付いたことを伝え合う際に，友達の考えを認めようとしている。 ⑤ 場の安全に気を付けている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

（１）知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① ロンダートの行い方について，言ったり書いたりしている。	・ ロンダートの留意点を友達や教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② 助走からホップを行い，片足を振り上げながら片手ずつ着き，体を 1/2 ひねり両足を真上で揃え，両手で押しながら両足を振り下ろし，空中で回転して立ち上がることができる。	・ 滑らかなロンダートを安定して行うことができる。（何度も繰り返しできる）

（２）思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。	・ ロンダートを習得するためにはどのような動きが必要かを考え，課題に応じて試行錯誤しながら取り組んでいる。
② 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。	・ 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の動きをよりよくする行い方を選んでいる。
③ 友達の手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友達に伝えたり書いたりしている。	・ 友達のよい動きの特徴を，擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に友達に伝えたり，カードに書いたりしている。

（３）主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① ロンダートに進んで取り組もうとしている。	・ ロンダートへの習得に向け多様な行い方を進んで試している。
② 場の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく，グループの友達を励ましたり，応援したりしている。
③ 場の準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
④ 動きや気付いたことを伝え合う際に，友達の考えを認めようとしている。	・ 動きや気付いたことを伝え合う際に，友達の課題を自分事として捉えその解決方法を考えている。
⑤ 場の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく，周囲の安全にも気を配っている。